

2008年10月14日

お客様各位

マスマチュアル生命保険株式会社

サブプライムローン問題を発端とした金融市場の混乱は、今年9月以降、複数の欧米大手金融機関が実質的に経営破綻に追い込まれるなど、混迷の度合いを深めております。特に10月以降は、世界的に株価の下げ足が速まり、日本の日経平均株価もバブル崩壊後の最安値をうかがう展開となっております。また、外国為替市場においても、円高が急速に進展するなど、金融機関の経営をはじめ日本経済全般への悪影響が懸念される状況となっております。

このような市場環境下、弊社（マスマチュアル生命）及び親会社（米マサチューセッツ・マスマチュアル・ライフ・インシュアランス・カンパニー）への影響について以下のとおりご報告させていただきます。

<弊社について>

弊社では、資産と負債を適切にコントロールするALMを資産運用の基本に据え、資産の長期性・安全性・収益性に留意したポートフォリオ運営を行っています。具体的には安定した収益を得られる円金利資産（公社債等）をポートフォリオの中核とする一方、株式への投資は最小限に抑えた運用を行っています。

また、貸付や債券等への投資については、与信先ごとに信用度に応じた投資額上限を設けるとともに、特定の資産種類や業種についても制限を設定し、信用リスクの過度な集中を排除する仕組みを整えております。

このような運用方針の下、株式投資残高は約33億円（2008年8月末簿価）、一般勘定資産に占める割合を僅か0.3%に抑制し、安定性の高いポートフォリオ運営に努めております。

外貨建資産の運用については、約1,447億円（2008年8月末簿価）、一般勘定資産に占める割合も15.3%と相対的に大きな投資残高を有しておりますが、為替先物や為替オプションを利用し、為替リスクに留意したポートフォリオ運営を行っており、2008年9月末では為替リスクをほぼ全額ヘッジした状況にあります。

従いまして、今般の急激な株価の下落、円高の進行に伴う弊社経営への影響は限定的な状況にあり、弊社は依然として健全な財務状況を維持しております。

引き続き、上記の資産運用方針のもと、厳格なリスクマネジメントを通じポートフォリオ全体としての損失を限定させるよう適切にコントロールしてまいります。

弊社はスタンダード&プアーズ社（S&P）から保険財務力格付けにおいて「AA」の評価を得ています。（2008年10月10日現在の評価であり、将来的に変更される可能性があります。格付けは格付会社の意見であり、保険金支払などについて格付会社が保証を行うものではありません。）

<親会社について>

親会社の投資ポートフォリオは、信用度の高い良質な資産に幅広く分散投資されております。また、証券会社等と異なり、短期資金に依存するようなビジネスは展開しておりません。さらに同社は、古くから、銀行、証券等、金融セクターへの投資額に厳しい制限を課しており、現在、これらの業界への投資残高は一般投資勘定 820 億ドルの 2%弱と、強固な資本状況から見ると少額にとどまります。

同社の事業基盤は引き続き安定的に推移しております。資本力につきましても 2008 年度 6 月末剰余金は 78 億 1,400 万ドル（前年同期比 9%増、前年 12 月末 2%減）と、非常に安定的です。この強い資本力と共に、米国マスマチュアルは、業界の中でも最上級レベルの財務力格付を維持しております。

【S&P:AAA、ムーディーズ:Aa1、フィッチ:AAA、A. M. ベスト:A++】

上記の格付けは、親会社に付与されたものです。また、この格付けは 2008 年 10 月 7 日現在の評価であり、将来的に変更される可能性があります。

以上